性健常者，男性乱用者に比し，欠損アレルが多かった。よって，女性において，GSTM1 遺伝子が覚醒剤乱用における脆弱性に関与している可能性が示唆された。

7．[^{11}C] MP4P/PET を用いた脳内 AchE 活性の定量測定

佐藤康一，白石哲也，伊豫雅臣
（千大）
篠遠　仁，福士　清，田中典子
青墳章代，黄田常嘉，長塚伸一郎
難波宏樹，棚田修二，入江俊章
（放医研・画像）

高活性部位である線条体への放射能集積から入力関係の情報を得る簡便法（対照法）を，継時動脈採血を行う標準法と比較し検証した（健常12例）。簡便法により，低活性部位である大脳皮質及び中等度の活性をもつ視床において，標準法と同等の精度で k3 値（AChE 活性の指標）が得られた。

8．[^{11}C] MP4A，[^{11}C] MP4P を用いたサル脳 PET 測定における解析法の検討

白石哲也，佐藤康一，伊豫雅臣
（千大）
福士　清，長塚伸一郎，入江俊章
（放医研・画像）
大庭弘行，塚田秀夫
（浜松ホトニクス）

サル脳内の AChE 活性の測定及び塩酸ドネペジルの AChE阻害率を標準法と簡便法で解析した。無阻害条件下では，両解析法での AChE 活性の測定が可能であったが，簡便法によるドネペジルの AChE 阻害率の評価は，MP4A では測定の可能性が示唆されたが，MP4P では困難であった。

9．精神疾患患者における事象関連電位の測定

小池　香，橋本謙二，高井信幸
岡村斉恵，熊切　力，渡邉博幸
中里道子，篠田直之，清水栄司
小松尚也，岡田真一，伊豫雅臣
（千大）

今回我々はポータブル脳波計を用いて事象関連電位を測定できる装置を低コストで開発したので報告した。それにより測定シーケンスの変更が容易で，記録データ選択における柔軟性が高く，取得したデータに対しパーソナルコンピューターでの解析処理を施すことが可能となった。今後は精神疾患患者における事象関連電位（P50，P300など）を測定し，薬物の効果による変化，認知機能との関連などを調べていく予定である。

10．MK-801の神経毒性に対するゾテピンの神経保護作用について

岡村斉恵，橋本謙二，清水栄司
熊切　力，小松尚也，伊豫雅臣
（千大）
金原信久　（国保旭中央）

NMDA 受容体遮断薬 MK-801を投与したラットにおいて，後部帯状回での神経細胞の空胞化と HSP-70蛋白の発現を抗精神病薬ゾテピン（5，10，20mg/kg,i.p.）が抑制し，その効果はクロザピン（20mg/kg,i.p）と同等であった。この結果から，ゾテピンの特徴的な非定型抗精神病薬としての薬理効果が，動物モデルで示され，コクザピンとの類似性も示唆された。

11．多彩な感情表出を見せた辺縁系脳炎の１例

石川雅智，南雲清美，福島剛志
高橋宏和，小島重幸
（松戸市立・神経内科）

今回我々は多彩な感情表出を見せた辺縁系脳炎の38歳女性例を経験した。感情表出は「突然笑い出す」，「話しかけても笑顔や泣き顔を見せるのみ」などであった。こうした精神症状や痙攣に対して抗精神病薬やバルプロ酸は効果を示さなかったがステロイド大量療法とカルバマゼピンが有効であった。最近報告されている辺縁系脳炎の中の新しい一群に属する病態であると考えられた。

12．精神科病棟にて術前・術後管理を行った症例の検討

秋元武之，吉村政之，粕谷　乾
古田多真美，斎賀孝久，佐藤茂樹
（成田赤十字）

今回我々は精神科病棟にて術前・術後管理を行った症例について検討した。手術病名は多岐に渡っていた。精神障害者の手術では本人の同意が問題となるが，医療保護入院の症例でも本人からの同意が得られる場合も存在した。同意能力がない症例での手術に関しては更なる検討が必要と思われる。

13．当院におけるせん妄の治療について

鈴木　均，福留和美，武田直己
（松戸市立）

当院に入院中でせん妄と診断された49人について，その臨床的特徴についてまとめた。リスペリドンをはじ